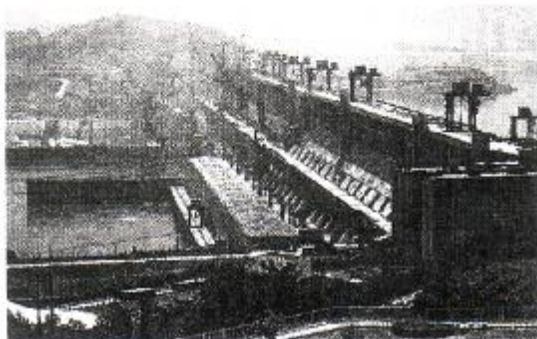


中国が長江中流の湖北省宜昌市で建設していた世界最大級のダム、三峡ダムの堤本体が二十日に完成する。発電や水運、洪水防止を目的にした総投資額千八百億元(約二兆六千億円)の巨大国家事業。発展する中国を象徴する存在となる一方、水没地域からの大量の移民発生や環境破壊などの問題も引き起こし、開発の代償も大きい。

二十日の完工式を前に十七日、外国人記者団に公開した。堤は高さ百八十五メートル、幅二千三百メートル。満水時の水位は百七十五メートル。ダム式では世界最大となる出力千八百二十万瓩の発電所を備え、発電量は年間八百四十七億瓩

中国・三峡ダム 20日完成

世界最大級



三峡ダムの年間発電量は九州電力を上回る規模

時と九州電力の年間発電量を上回る。一部未完成の発電設備なども含めた全面完成は二〇〇九年の予定。

発電電力は上海など需要が多い沿岸地域へ主に送電する。〇三年に中国各地で顕在化した電力不足は、発電所の新設などで解消に向かいつつある。中国は排ガスを出さない水力発電が環境対策につながるとして各地に

総投資額 2兆6000億円

環境破壊など代償も

増設する計画だ。

宜昌から重慶までの約六百六十キロが貯水池に変わり、長江上流の水位が上昇した。上流地域の重慶では積載量一千トンの船しか常時運航はできなかったが、二年後までに三千トンの船が乗り入れられるようになる。

物流効率の低さが発展の障害となっていた内陸でも、船による輸送能力

が高まり、外資など企業が進出しやすくなる。

一方、多くの農村が水没し、二十万人が移転を迫られた。会見した三峡工程開発総公司の李永安総経理は「移民者の生活は改善した」と強調するが、「移転後に与えられた畑は急傾斜地で作物が育たない(重慶の農民)など生活が苦しくなった人も多い。

(湖北省・宜昌＝宮沢徹)



全国人民代表大会常務委員会での報告によると、水力発電所建設などで農地を失った「失地農民」は中国全土で四千万人以上に上る。補償金未払いや強制退去を巡る暴動も起き、社会不安の原因になりかねない。

重慶大学の王里奥教授は「長江の水流が遅くなり、川の浄化作用が衰え、大量のごみが浮遊し、水質汚染も深刻だ。

胡錦濤政権は今年から新五カ年計画で環境や社会の安定を重点政策に掲げた。三峡ダム事業でも課題克服の具体的な方策を示していかねばならないようだ。